

Dentists for Japan

イタリア人歯科医による

日本支援のためのチャリティ・セミナー

二階堂雅彦（日本橋）

先の大震災におかれ被災をされた東北で開業する我々の歯科の仲間、またお住まいの方々に心よりお見舞いを申し上げます。被災された方々に対しては、都歯会員の先生方も義援金の送付、また中には身元確認や、被災された方々への診療などボランティア活動を通じて復興のための支援をされているのは様々なところで報告されている。原発の問題はまだ予断を許さないが、一步一步復興に向け歩んでいるのは先生方の周知のとおりであろう。

セミナー開催まで

筆者は10数年前にアメリカでの留学生活を送った経験から、震災直後には世界各地から多くのあたたかいお見舞いメールをいただいた。1か月余りしてイタリアで開業する友人

の歯科医、Dr. フェデリコ・ブルニャーミ（ローマ、歯周病専門医）、Dr. アルフォンソ・カイアッツォ（サレルノ、口腔外科医）から「日本大使館に知り合いはいないか?」という問い合わせのメールもらった。「どうして?」と聞くと、「日本のための何かできないかと考えているんだ」との返事である。彼らはともに私がかつて学んだボストンのタフツ大学歯学部時代からの友人で、昨秋にはインプラント・メーカーの招きで来日し、東京、福岡で講演会を行い、さらに二人ともワインのエキスパートであることからワイン会を東京で行った。中でもフェデリコは、すでに6回以上の来日を重ね、日本にとっても多くの思い出を持っている。その彼らが遠くイタリアの地で日本のことを思い、チャリ

ティの会を開催しようとしている。その心意気に、胸が熱くなった。

彼らの行動は早かった。4月の中旬には、日本を支援するためのチャリティ・セミナーを、アルフォンソの開業する南イタリア、サレルノで“Dentists for Japan”（日本のための歯科医師の集い）と名付け6月27日（月）に開催することを決定した。参加者から寄金を集めそれを日本のために寄付するという。すぐに、2001年に「日本におけるイタリア年」などを開催し、イタリアと日本をつなぐ官民一体の非営利団体である伊日財団（Fondazione Italia Giappone）の協力を取り付け、伊日財団のロゴを使う許可を得、風に揺れる日の丸をモチーフにしたこの会のシンボルマークを作った①。ここには『絆 - Signs for friendship（友情



① 会のシンボルマーク



② サレルノ，南イタリア



③ サレルノの街角で，イルカの水盤

の証し』と記されている。さらに地元医師会（イタリアでは歯科医師は医師会に属しているという）、口腔外科学会の後援、またインプラント・メーカーの支援も短期間の中でとりつけた。また演者として、天川由美子先生（麻布赤坂歯科医師会会員）、秋本健先生（アメリカ・シアトル開業）、それに筆者の3名がイタリア歯科医師会の卒後研修(Continuing education)を兼ねた講演を行うこととなった。こうして日本を支援するためのイタリア人歯科医師の会“Dentists for Japan”の開催準備が整った。

サレルノの街で

この会の開催されるサレルノは、ナポリから南へさらに車や鉄道で1時間下ったところにある地中海に面した港町で（②，③）、映画で有名になったアマルフィへの入り口にある。ここからソレントを結ぶ40キロのアマルフィ海岸は「世界一美しい海岸線」と呼ばれる。筆者にとってもサレルノは初めての訪問で、古く

からの海洋都市として栄えた歴史を持つ風光明媚な街であった。特に8世紀には西洋で初めての医学校、「サレルノ医学校」が開校し、医学教育の中心となった。現在は博物館として保存されている。

当日は講演会に先立ちサレルノ市庁舎を表敬訪問し、市長代理であるエルマーノ・ジュエラ先生(歯科医である)、市の文化委員を務めるルシア・ナポリさんからサレルノの歴史

や文化についての説明を伺った。サレルノはかつて第2次大戦末期に連合国軍が上陸し激戦の場所になったこと、また当地区でも本マグロが水揚げされ、その多くは日本に輸出されることなど、興味深い話はずきない。市庁舎はアールデコの美しい建築で、今日の記念に陶器で有名な当地区、ビエトリで作られた大きなプレートに演者それぞれにいただいた（④）。



④ サレルノ市庁舎にて，記念のプレートをいただく
左からルシア・ナポリさん，天川先生，秋本先生，筆者，
Dr.エルマーノ・ジュエラ，Dr.アルフォンソ・カイアッツォ

このチャリティ・セミナーはサレルノ歯科センターに併設するホールで行われた。午後7時の講演開始に先立ち、地元 TV 局の取材が行われた。会場にはサレルノや近郊の歯科医たちだけでなく、ナポリや遠くはローマからも歯科医が詰めかけ、中には東京医科歯科大歯周病学講座で20年以上上客員教授を務めておられる、Dr. ディエゴ・ボルゲーゼ（ローマ開業）の顔を見ることも

できた。講演会はサレルノ市医師会長 Dr. ブルーノ・ラベラの開会の辞から始まり、次いで在イタリア日本大使館から感謝のメッセージが代読された (⑤, ⑥, ⑦)。

セミナーは最初に、筆者が震災のもたらした被害、そしてその後の復興の現状を参加者にお話しさせていただき、次いで「歯周治療と修復治療のインター・ディスプリナリー・アプローチ」について、天川

先生は「コンポジットレジンを用いた審美修復」。秋本先生は「修復治療に起因するインプラントのトラブル」についての講演を行った。そしてこの講演会で集められた寄金は日本大使館を通じて、日本の復興のために寄付された。

おわりに

未曾有の大惨事に被災をされた方、また家族を亡くされたかたの心中は想像を超えたものがあるだろう。世界中に配信された映像は、多くの人の心を抉った。さまざまな国でさまざまな方々が日本の支援のためのイベントを開催している。われわれ歯科の仲間もイタリアでこのような会を開催し日本のための支援をしてくれた。復興の道のはまだ遠いが、このようなセミナーを開催してくれた Dr. ブルニャーミと Dr. カイアッツォの行動力と友情に、また趣旨に賛同してくださったイタリア人歯科医たちに感謝を捧げたい。



⑤ 地元 TV 局の取材を受ける筆者とアルフォンソ



⑥ 会に先立ち挨拶されるラベラ医師会長



⑦ 講演会后
右から二人目が主催者の一人、ローマの Dr. フェデリコ・ブルニャーミ